

語り手 遠藤たいさん

(明治32年生まれ)

昭和57年1月7日収録

あらすじ

昔、おじいさんとおばあさんがいて、おじいさんは山へしば刈りに、おばあさんは川へ洗濯に行かれた。

洗濯していたら大きな桃が流れてきたので、拾って持っていった。おじいさんはしば刈りからもどって来た。「今日はこげな大きな桃が流れてきたが、食べてみましよう」と包丁で割ろうとしたら、割れたそうです。男の子がそこへ出ました。「食べるぞ」ころの話がない。自分らちに子がなにもんだけん、天の授かりもんか知らん。桃か

桃太郎

(西伯郡伯耆町溝口)



一般型、かなり以前から

桃太郎が3年たち5年たち大きくなって、おじよつたら「桃太郎さん、るとまた雉が出てきたぞいさんやおばあさんにその腰のもんは何ですうです。それからもうら

「鬼が島にかたき討ちにか」行って「これは日本て、雉もついで行くし、行くけん、きび団子を二一のきび団子」「わたしその方から跳んで来てすりゃあ、こらえてやあしらえてくれ」て頼んだにも一つ、くださいな「やるこたあやるが、鬼きび団子もらうて食べてそです。」

そのきび団子をもらうが島へかたき討ちに行かたり、おじいさんは日本あと思つ」行って、猿が

ら生まれたけん、桃太郎に一つきび団子もらうて食いて旗をこらえてやっ、山の方へ行くべつてついで行く。そうす

「やうで雉が」どこから鬼が島へ行くのが一番い引張るやらして、宝物

「自分か空から見てくうけん」と行って、空へ飛び立つし、そこから猿はもう山へ慣れて木に慣れていることだしし人にも分けてあげて、みて、みんなして鬼が島へ渡るところを見つけて、渡って、鬼は赤鬼やら青鬼やらいっばいおつて、

解説

しばらく雉は空から降りてつづくやら、犬は噛みかかるやらするものだから、生まれの父から聞いた話から、それで猿は木の上かだという。ただ、語りの木の上から、鬼の頭一般型と同じであり、こへ跳んだりして跳ね回っては、かなり以前からである。鬼はとうとう負けては、かなり以前からである。降参して、「この宝物をみんなあんた方にあげえ理解されてくるのである。けん、自分も家来にして。ごしえ、そうでもう悪い(元鳥取短期大学教授)ことはせんけん」て断り(水曜日掲載)